

筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例

《概要》

Sさん 78歳 女性 夫と二人暮らし

結婚前までは働いていたが、20代で結婚後は専業主婦だった。夫や子供の世話をしながら一生懸命生活してきた。長年現在の住所に住んでおり、近隣には知り合いもいて、お茶飲みする友達も何人かいる。

Sさんは、10年ほど前から膝の痛みを時々感じ、整形外科を受診し、変形性膝関節症と診断されていた。痛みが強い時にはシップと服薬、注射などで対応し、手術はしていなかったが、両膝の変形は徐々に進み、家の中でふらつくことも度々あった。

4か月前、自宅で押入れから荷物を取ろうとしてバランスを崩し後方へ尻もちをついた。その時は大丈夫だったが、その後腰痛が強くなり、かかりつけの整形外科を受診し、圧迫骨折の診断を受けた。コルセットを処方され、自宅に戻り「痛みの無い範囲で動いて良い」という医師の指示を守り過ごしていた。この間、夫は家事全般やSさんの入浴の手伝いなども献身的に行っていた。

1ヵ月半後、骨折部位については、ほぼ治癒している状態だと説明を受け、Sさんも様子を見ながら家事などを行っていたが、常に腰が重だるく、無理をしているうちに膝の痛みも出てきた。病院受診しようとして外に出た時に玄関先でふらつき、再び転倒。今回骨折はしなかったが、これを機に転倒への恐怖心が強まり、全く外出することも無くなってきた。家の中では、時々台所に立つが、そのほかは、横になっていることが多くなってきた。介護保険の更新で要支援2から要介護2になった。

Sさんは、もともとは明るく前向きな性格だが、現在はすっかり自信を無くしている。夫は熱心に家事や介護を行ってきたが、徐々に疲れも感じてきている。また、夫は妻が転倒を怖がり外出もせず、家の中で運動もあまり行わないことについて気にはしているが、無理をさせてはいけないと思い、安静にするようにと言いつけている。

今回は、離れて暮らすSさんの娘さんが「お父さんも介護疲れで倒れてしまっては困るし、お母さんは安静にしていることによって、より動くことが難しくなるのではないか」と考え、主治医である整形外科の先生に相談し、介護保険のサービスの利用を検討したいと相談を寄せた。

基本情報に関する項目

No.	標準項目名	項目の主な内容
1	基本情報 (受付、利用者等基本情報)	受付年月日： 受付担当者： 氏名：Sさん 性別：女性 年齢：78歳 住所：北海道△△市 家族状況：夫と二人暮らし（ジェノグラム参照） 娘は東京に在住 夫も大きな病気をした後で、健康にやや不安がある
2	生活状況	生まれて育った地元で生活している。 身の回りのことは自分でできている。外出は病院のみ。 2度目の転倒後は、家事もほとんど行わず閉じこもりの状態になり、家事全般や必要な介護は夫が行っている。
3	利用者の被保険者情報	要介護 2 国民年金
4	現在利用しているサービスの状況	なし
5	障害高齢者の日常生活自立度	A 2
6	認知症高齢者の日常生活自立度	自立
7	主訴	腰が痛くなってから寝たり起きたりの生活で、家事を行うことや外出することが大変。このまま悪くなって動けなくなるのではないかと心配している。
8	認定情報	要介護 2 (平成●●年○○月△△日～平成●●年■●月▲▲日)
9	課題分析（アセスメント）理由	介護保険サービス利用開始 これまでサービスの利用経験なし

課題分析（アセスメント）に関する項目

10	健康状態	60歳から：高血圧で服薬 68歳から：膝の痛みが出てきて、両変形性膝関節症と診断 78歳：転倒により腰部圧迫骨折 保存的治療 内服薬：オルメテック 20 mg 朝食後 ロキソプロフェン 60 mg 朝昼夕食後 ムコスタ 100 mg 朝昼夕食後 身長 150センチ 体重 42 kg (減少している) 診断名はついていないがうつ傾向あり
----	------	---

11	ADL	<p>歩行（移動）：自宅内は伝い歩き、腰を曲げながら歩く。 自宅以外の屋外・ほぼ歩いていないが、少し前までは軽く、つかまれば歩行可能。今は不安が強い。</p> <p>移乗：車への乗り降りは介助必要。車椅子は使用せず。</p> <p>寝返りや起き上がり：ゆっくり行えば手すりにつかまり可能</p> <p>更衣：自立</p> <p>整容：自立</p> <p>入浴：浴槽への出入りは、浴槽のふちにつかまり介助必要</p> <p>排泄：自立（便秘がち）</p>
12	IADL	<p>買物：夫が行う、宅配サービス利用。自分で買い物に行きたいと思っている。</p> <p>調理：腰痛が強くなり、10分程度しか台所に立つことができない（休むとまた動けるが億劫である）。</p> <p>掃除：身の回りの片づけはできる。腰痛が強くなるため掃除機は使用しない。</p> <p>金銭管理：計算はできる。家計のやりくりは自立。</p> <p>服薬状況：自立</p> <p>電話の利用：自立</p>
13	認知	問題なし
14	コミュニケーション能力	自分を理解させる能力・他者を理解する能力は問題なし 最近言葉少なくなってきた。
15	社会との関わり	もともとおしゃべりが好きで近所付き合いも良かった。最近は家に閉じこもりがちなため、夫と遠く離れた娘と電話をする以外は話すことはない。本当は買い物や近所にお茶飲みに行きたいが、腰が痛いし、また転んでは困ると思い、億劫である。
16	排尿・排便	便秘が続いている。とても気になっている。
17	じよく瘡・皮膚の問題	問題なし
18	口腔衛生	義歯。自分で歯の手入れはできている。
19	食事摂取	好き嫌いはないが、最近食は細くなり、体重は減っている。
20	行動障害	なし
21	介護力	夫は病後で虚弱だが、本人のためを思いなるべく無理をさせないように介護をしている。思ったよりも介護が必要な状態が長引き疲労も感じている。娘は東京に在住。家族関係は良好だが、脆さも見えてきている。友人もいるが、皆、高齢である。
22	居住環境	持ち家2階建。今は階段を上がって2階に行くことはできない。 浴室・玄関には段差あり。各部屋は1.5センチ程の段差あり。手すりの設置はなし。（見取り図参照） 自宅より歩いて10分程度のところにスーパーあり。
23	特別な状況	なし